

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおいにぎわいのある親しまれる港づくり			3年度事業・施策評価結果		責任者	建設部 総合開発課長	
施策名	にぎわい創出に向けた再開発の推進			成果	コスト			
事務事業名	ガーデンふ頭再開発の推進			継続	維持	維持	連絡先 052-654-7971	
目的	対象(誰・何を)	ガーデンふ頭					連携課	
	意図(どういう状態にしたいか)	みんなが楽しめる賑わい空間の形成、ゆったりと過ごせるくつろぎ空間の形成を目指す。					事業期間	平成22年度～
概要	「ガーデンふ頭再開発基本計画」に位置付けられている「にぎわいの創出」と「くつろぎの場の提供」の実現のため、名古屋港水族館の集客力強化や緑地・広場の機能向上などについて、民間事業者への意見聴取を行うとともに、国や港湾関係者との合意形成を図りながら、再開発の基本的な内容を具体化し、再開発の実現に向け取り組む。						根拠法令等	
							実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
							関連シート	

2 DO(実施)

令和4年度に実施した内容・結果	民間事業者と意見交換を継続しつつ、社会経済情勢や感染症の影響により生活様式が大きく変化していることから、有識者会議を活用し、官民連携事例を参考に再開発の実現に向けた方向性の検討を進め、計画立案段階から開発主体の誘致までを行政と民間事業者が協働で行う新たな取組をとりまとめた。併せて、開発エリアの確保に向けた関係者との調整を進めるなど、再開発の実現に向け取り組んだ。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	19,624	10,609	109,000	26,890	
人件費	千円	34,403	34,345	29,250	27,720	
合計	千円	54,027	44,954	138,250	54,610	

3 CHECK(検証)

成果目標名		元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
ガーデンふ頭再開発の進捗状況(全3工程)	目標	1	1	2	2		3	以下の項目のうち完了した工程数 ① 基本計画の策定 ② 基本的な内容の具体化 ③ 事業者選定・事業化	感染症
	実績	1	1	1	1				
【進行管理型】	事業進捗状況(4年度)		順調 ・ やや遅れ ・ <u>遅れ</u>						
	目標								
	実績								
事業進捗状況(4年度)									
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)		社会経済情勢や感染症の影響により生活様式が大きく変化している中でも再開発を着実に進めていけるよう、新たな取組をとりまとめた。また、開発エリアの確保に向けては、港湾業務機能の建物5棟のうち2棟の撤去が令和4年度までに完了するなど、関係者との合意形成に向けた調整や各種検討に取り組んだが、今後も引き続き調整等に時間が必要な状況となっていることから、成果目標の見直しについては、諸条件が整い次第検討を行う。							
必要性・有効性・効率性の検証		評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○	港のにぎわいの創出に向け、ガーデンふ頭は親しまれる港づくりの拠点として再開発を推進していく必要がある。また、県民・市民からのニーズも高く、再開発を実施していく必要がある。						
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○							
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○	ガーデンふ頭を再開発することによって、更なる魅力ある港湾空間を形成することができ、にぎわいの創出につながるかと考えている。						
	期待どおりの成果が得られているか?	△	感染症や調整状況によって目標に達成することができなかったが、新たな取組を整理した。						
効率性	最小のコストとなっているか?	○	最小コストで事務を行っている。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	5年度以降の方向性		判断理由	
		成果	コスト	
	継続	維持	維持	感染症の影響により、再開発の民間事業環境は厳しい状況下であり「遅れ」となったが、感染症の影響による生活様式などが変化している中でも再開発を着実に進めていけるようとりまとめた新たな取組に基づき事業化に向けて取り組んでいくことから、今後の成果は「維持」とし、コストも「維持」とする。
課題		5年度以降の取組		
新たな取組により再開発を推進していく必要がある。また、開発エリアの確保に向けて関係者との調整を進めていく必要がある。		これまでの取り組み方を見直し、計画立案段階から開発主体の誘致までを民間事業者と協働で行う新たな取組を進めていくとともに、開発エリアの確保に向けた関係者との調整を進めるなど、再開発の実現に向け取り組む。		

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおい・にぎわいのある親しまれる港づくり		3年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 金城・中川・南5区 担当課長
施策名	にぎわい創出に向けた再開発の推進		成果	コスト			
事務事業名	中川運河にぎわいゾーンの魅力向上		継続	維持	維持	連絡先	052-654-7978
目的	対象(誰・何を)	中川運河の北幹線・北支線・東支線				連携課	環境担当、事業推進課、管財課
	意図(どういった状態にしたいか)	ささしまライブ24地区の開発などと連携し、都心地域に集まる人びとが訪れたいような「港と文化を感じる都心のオアシス」の形成を目指す。				事業期間	平成30年度～
概要	「中川運河再生計画」で位置付けられている「にぎわいゾーン」において、護岸の老朽化対策及びプロムナードの整備を行い、東支線においては、護岸補修及び遊休地の有効活用を図るとともに、水質改善に向け覆砂による底層改善に取り組む。					根拠法令等	
						実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
						関連シート	

2 DO(実施)

令和4年度に実施した内容・結果	老朽化した護岸の改良・補修を実施するとともに、プロムナード整備に着手した。また、東支線では、運河を眺められる視点場の整備、底層改善に向けた覆砂を実施した。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	4年度	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	196,361	188,362	378,435	1,024,346	
人件費	千円	17,431	17,431	17,100	17,100	
合計	千円	213,792	205,793	395,535	1,041,446	

3 CHECK(検証)

成果目標名		元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因	
中川運河覆砂進捗状況(全4工程)	目標	1	2	3	3		4	東支線における覆砂の実施において①現況調査、②設計、③工事着手、④整備までの工程		
	実績	1	2	3	3					
【進行管理型】	事業進捗状況(4年度)		順調・やや遅れ・遅れ							
護岸補修延長(全1,100M)	目標	350	600	850	1,100		1,100	東支線における既設護岸の補修延長(※最終年度は、令和4年度とします)		
	実績	500	500	850	1,100					
【進行管理型】	事業進捗状況(4年度)		順調・やや遅れ・遅れ							
プロムナード整備延長(全1,540M)	目標	—	—	300	1,140		1,540	北幹線・北支線におけるプロムナードの整備延長	関係者の意向	
	実績	—	—	0	120					
【進行管理型】	事業進捗状況(4年度)		順調・やや遅れ・遅れ							
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)		東支線における覆砂は順調に進捗しており、護岸補修は完了した。プロムナード整備については、関係者との調整に時間を要したが、令和4年度に着工した。								
必要性・有効性・効率性の検証		評価	評価に関する説明							
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○	にぎわいの創出を図るため、引き続き、にぎわいゾーンの魅力向上に取り組む必要がある。							
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっていないか?	○								
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○	にぎわい施設の誘導が進む沿岸用地の護岸の老朽化対策やプロムナードの整備や覆砂を通じて、「にぎわいゾーン」の魅力向上が図られる。プロムナード整備については、関係者との調整に時間を要し、着工が遅れたことから、今後、整備の進捗に努めていく。							
	期待どおりの成果が得られているか?	△								
効率性	最小のコストとなっているか?	○	コストが最小になるよう事業を進めている。							

4 ACTION(取組)

施策評価結果	5年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	中川運河にぎわいゾーンにおいて、良好な水環境の創出や回遊性の向上を図ることにより運河の魅力向上を推進していく必要があるため。
課題		5年度以降の取組	
水環境の改善や護岸の老朽化対策等を進めるとともに、回遊性向上に向けたプロムナード整備については、関係者との調整を踏まえ、推進していく必要がある。		引き続き、覆砂、老朽化した護岸の改良、視点場及びプロムナードの整備を進めていく。	